

第7回 奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年10月3日(木) 19時~22時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者 樋口(平城西小)、圓山・阿彌・大西(飛鳥小)、三木(都跡)、石田(左京小)
吉田・長友(附属中)、島(郡山西小)、今井(ソーシャルサイエンスラボ)
藤原・仲村・坂元・東尾(学生)、北村・中澤(奈良教育大学) 計16名

◇内容

1. レジリエンスとは

テキスト「子ども親も共に育つ 家庭・地域・幼稚園」レジリエント・シティ京都市統括監 藤田裕之

- ・「子育ての四訓」:「乳児はしっかり肌を離すな。幼児は肌を離せ、手を離すな。少年は手を離せ、目を離すな。青年は目を離せ、心を離すな。」
- ・「子どもが育つ魔法の言葉」:「和気あいあいとした家庭で育つ子供は、この世がよいところだと思うようになる。」

- ・大人も子どもにとっての周囲の環境の一部
- ・子育て世代が孤立感、徒労感、不安感にさいなまれている。
- ・お母さんひとりが子どもを育てているという現状。
- ・「豊かな自然、そして適度な欠乏、そして親の愛、この3つがあれば、子どもは育つ」
- ・「子どもを不幸にする最も確実な方法、それは子どもが欲しがるものを何でも与えてやることだ。」
- ・「私たち大人が見えていない世界を、子どもたちは見ながら育っている」
- ・周囲の大人と一緒に楽しい思い出をつくっていく
- ・物質的な豊かさ、利便性が優先される社会から、新たな価値観や幸福感、心温まる感性、幸福感や慈しむ心とかを共有できる社会

レジリエンス: しなやかに回復する性質

危機①突発的な事件・災害・事故等への緊急対応

危機②じわじわと忍び寄る内的なストレス(人口減少、少子化、地球環境の変化)

人口減少という危機

東京のブラックボックス化 若い人が首都圏に流れ込むが、その東京は出生率が最も低い

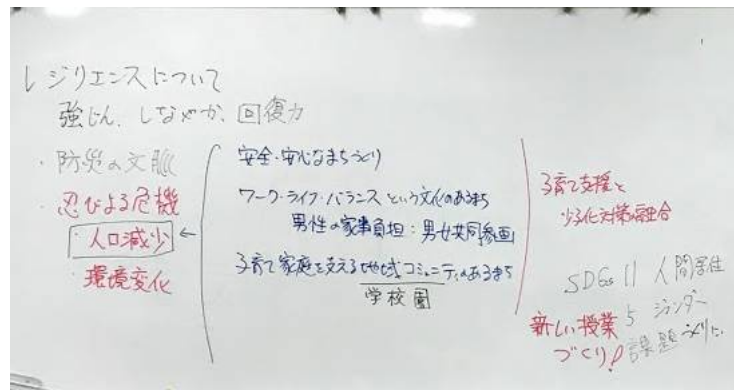
- ・人口が減少しても人々が、いきいきと安全に心豊かに健やかに育っていくような社会を作るためにどうすればいいのか。
- ・男性の家事負担率が高い国は出生率が改善傾向にある。

子育て支援:(男女共同参画)(企業文化としてのワーク・ライフ・バランス)と少子化対策の融合

○人口減少を解消するために: 子育て支援と少子化対策の融合(保育園を増やすだけでなく)

安全安心なまちづくり

ワーク・ライフ・バランスという文化のあるまち



→ 男性の家事負担 男女共同参画

子育て家庭を支える地域コミュニティのあるまち（核としての学校園）

SDGs 11や5に関わって、課題づくり・新しい授業づくり

2. 附属中学校のESDに関して

11月6日：奈良めぐり 試行錯誤しての授業づくりの実体験

生徒たちはどのようなESDの視点を獲得することができるのか

3. 学生の授業構想案の検討

(1)「天皇中心の国づくり」小学6年社会科・仲村

- ・自分がやりたいことから授業づくりに取り組んだ
- ・既存の奈良に関する学習とは違う奈良の取り上げ方
グループ活動、お坊さんへの聞き取り調査
ガイドブックを作り、下学年に自分の言葉で伝える。

◇総合にした方がいい（5年生の総合）

1学期に視点を持って世界遺産学習で現地見学

2学期に1年生が遠足で行って絵を描くのでそれにアドバイス（らほつの意味など）

◇当たり前を崩すためには他との比較がいる クリティカルシンキングの育成

◇子どもガイド：学校内でガイド検定を設定している学校もある。本当に観光客にガイド体験する

- ・他の学校とのガイドの交流（学校間交流で）、修学旅行に来る学校にアンケート

◇既存の学習とは違う、奈良へのアプローチのアイデア

- ・東大寺にこだわらず 地名、奈良公園
- ・つかわれている石材に着目
- ・面白い仏像をさがす
- ・建築様式に着目
- ・使われている色に着目
- ・鹿の食べる植物・食べない植物
- ・鹿のフンの多いところ（しかせんべいを売っていないところなのに）
- ・ボランティアガイドやしかせんべいやさんなどいろんな人にインタビューして、多面的理解を図る
- ・外国人向けのガイドブックに掲載されているおすすめのポイントを調べる
- ・奈良のおみやげの形、素材、値段など、生産者の意図をインタビューする

(2)「赤とんぼ」小学5年生音楽・藤原

- ・曲に込められた情景、感動を伝えたい



・この曲のよさを伝えるためには、赤とんぼが生きていける環境の保全が大切

◇赤とんぼを見に行く前と後での子どものもつイメージの変化に関心がある

◇この曲がつくられた大正時代の意味が子どもに本当に理解できるのだろうか。（この曲は、兵庫県たつの市で作られたと思うので、たつの市の環境の変化を知る手がかりにはなる。一方、日本人が共通して感じる郷愁を知る手がかりにもなる。）

◇赤とんぼの生態より赤とんぼのいる景観

◇環境が変化してしまい、子どものイメージ化はもう難しくなっている

◇さまざまな曲（秋の曲シリーズ）から環境の大切さを学ばせたい。

◇様々な曲には、それがつくられた基盤としての自然環境（夕焼けの赤とんぼの群舞）や社会環境（15歳での嫁入り）がある。歌詞からそれらを読み取り、今と比較し、その原因を考えたり、調べたりすることは、ESDになる。この取り組み方は、「赤とんぼ」だけでなく、他の曲にも有効なアプローチだと思う。



（3）「みそしるを作ろう」小学5年生家庭科・東尾

- ・みそしる一出汁の役割
- ・だしの取り方の比較 出汁の形が様々あることに気づく
- ・煮干しの出汁 粒状出汁 出汁なし など 体感する
- ・味の違い、手軽さ、

◇だし汁だけで比較させた方がいい

◇ESDとして考えるなら、出汁とったあとの出しがらの使い道の考える

野菜くずをなるべく減らすにはを考えさせる

◇家庭による味噌汁の違いを出身地とつなげて考える

◇みそも家庭、時代によって違う。地域性がある。クリティカル・シンキングにつなげたい

地域のみそを残していくことのメリット 地域のアイデンティティのために

◇他の国にはない出汁文化が日本にはあるということから、海に囲まれた国という食文化と自然環境の関連性に気づかせる。さらに海に囲まれた国、海洋に面している国は他にもあるので、出汁文化に類似した食文化を調べると文化の多様性を理解させる学習になる。



次回は11月7日（木）19時～です。